おいしさを、生きるちからに。
Hayashikane

2027年3月期第2四半期（中間期）
決算補足説明資料

林兼産業株式会社
2026年11月13日

All Rights Reserved. Copyright Hayashikane Sangyo Co.,Ltd.

中間連結損益計算書の概要

おいしさを、生きるちからに。

（単位：百万円）

	2026年3月期 第2四半期（中間期）	2027年3月期　第2四半期（中間期）	
		実績	前年増減
売上高	22,369	23,357	987
営業利益	787	▲23	▲811
経常利益	969	104	▲865
親会社株主に帰属する中間純利益	735	319	▲416

前年同期との主な変動要因

売上高	養魚用飼料の販売数量増加などにより増収
営業利益	配合飼料の原材料価格高騰による利益率の悪化等により減益
経常利益	営業利益の減少により減益

セグメント別の売上高・営業利益

おいしさを、生きるちからに。

（単位：百万円）

	2026年3月期 第2四半期(中間期)	2027年3月期 第2四半期(中間期)	
		実績	前年増減
売上高	22,369	23,357	987
食品事業	10,880	10,301	▲578
飼料事業	11,486	13,053	1,566
その他の事業	2	2	0
営業利益	787	▲23	▲811
食品事業	265	408	143
飼料事業	1,067	124	▲943
その他の事業	▲1	1	3
消去又は全社	▲542	▲558	▲15

中間連結貸借対照表の概要

おいしさを、生きるちからに。

（単位：百万円）

	2026年3月期末	2027年3月期 第2四半期(中間期)末	
			増減
流動資産	14,880	19,667	4,786
固定資産	13,355	13,265	▲90
資産合計	28,236	32,932	4,695
流動負債	9,832	13,542	3,709
固定負債	4,835	5,888	1,053
負債合計	14,668	19,431	4,762
純資産合計	13,568	13,501	▲66
負債純資産合計	28,236	32,932	4,695

中間連結キャッシュ・フロー計算書の概要

おいしさを、生きるちからに。

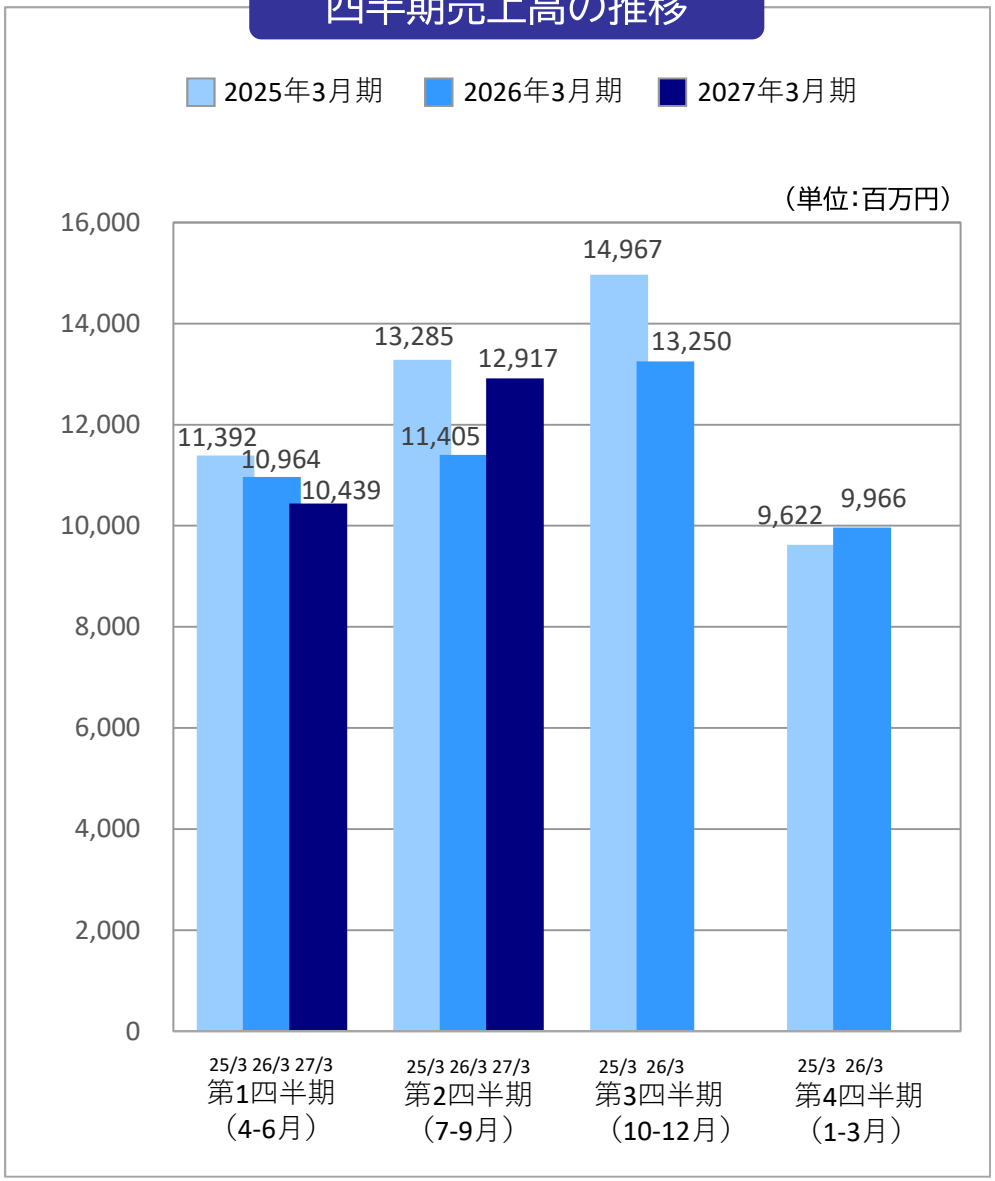
（単位：百万円）

	2026年3月期 第2四半期（中間期）	2027年3月期 第2四半期（中間期）	
			前年増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲2,508	▲3,776	▲1,267
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲170	92	263
フリー・キャッシュ・フロー	▲2,679	▲3,684	▲1,004
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,369	3,376	2,006
現金及び現金同等物の増減額	▲1,308	▲306	1,001
現金及び現金同等物の期首残高	3,146	1,951	▲1,194
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,838	1,645	▲192

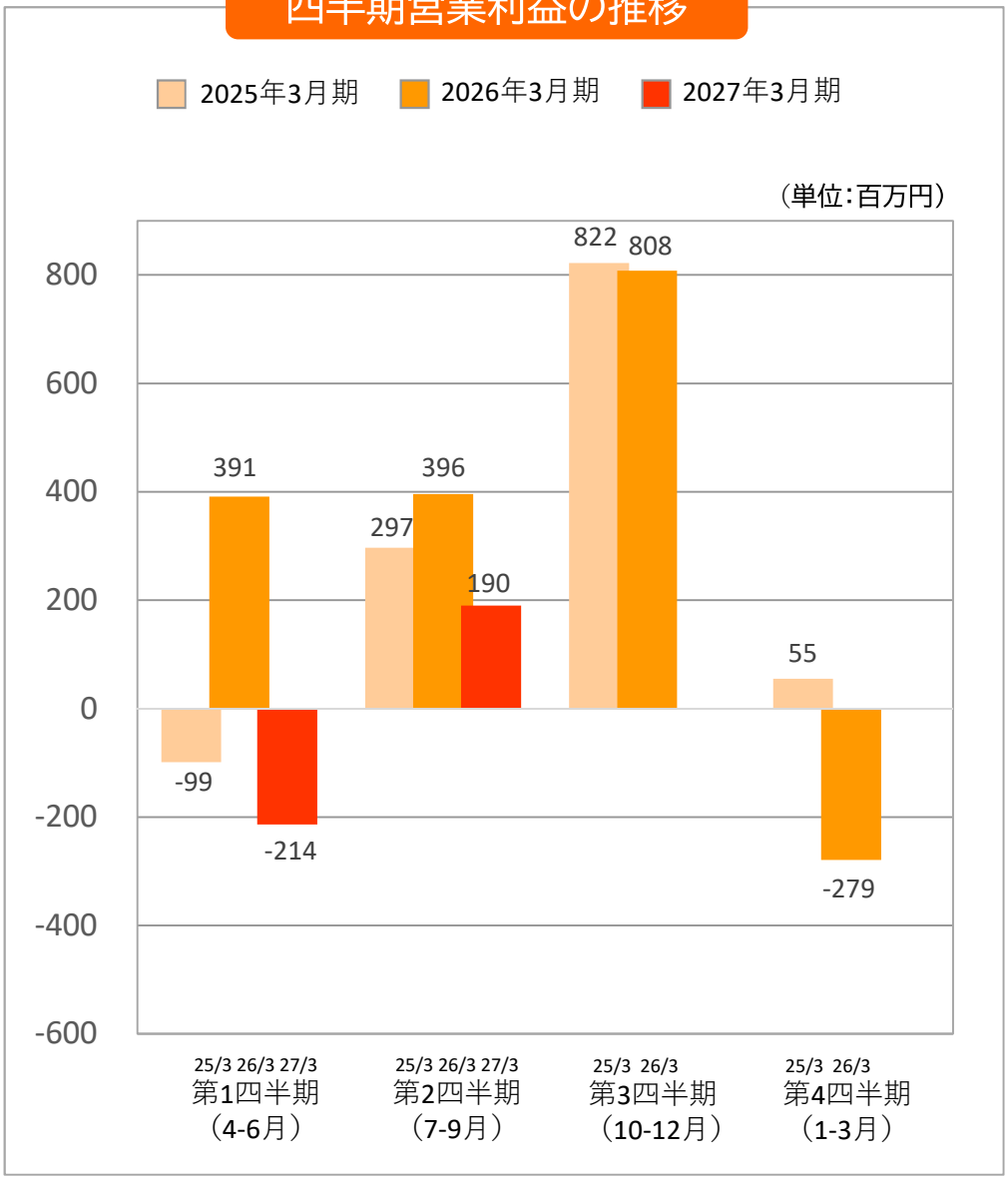
四半期連結業績の推移(売上高・営業利益)

おいしさを、生きるちからに。

四半期売上高の推移



四半期営業利益の推移



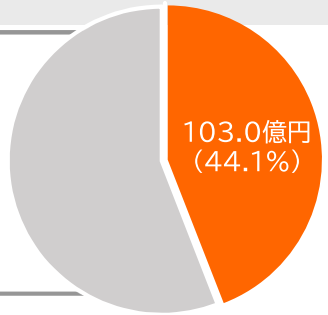
セグメントの状況(食品事業)

概況 :加工食品において収益性を重視した取引に努め、販売数量が減少したことなどにより減収。
自社ブランド「霧島黒豚」の農場肥育成績が堅調に推移したことなどにより増益。

食品事業

売上高　103億1百万円(前年同期比　5.3%減)

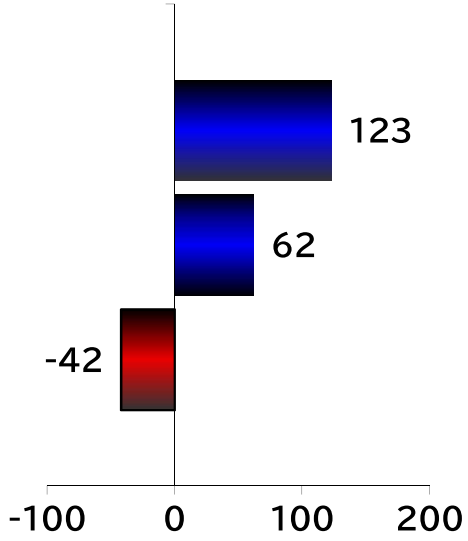
営業利益　4億8百万円(前年同期比　54.1%増)



営業利益の増減要因

営業利益の増加　1億43百万円

(単位:百万円)



霧島黒豚の農場肥育成績の改善など

製造費および販管費の減少など

豚肉や食肉加工品の売上減少に伴う収支悪化

新製品「霧島黒豚欧風カレー」





セグメント施策の進捗状況(食品事業)

おいしさを、生きるちからに。

食品事業

施策	状況
〈機能食品部門〉	
機能性素材の海外強化・用途拡大	・ハラール認証の取得によりタイ向けのエラスチン販売が好調、東南アジア地域への展開を推進 ・ヒシエキスの「排尿改善」機能性表示を取得し営業提案を強化中
〈加工食品・食肉部門〉	
介護食の市場深耕・商品ラインナップ拡充	・委託給食や配食会社向けに常食から嚥下食まで幅広く対応可能な調理素材、食肉および水産加工品を開発 ・施設、配食、在宅領域へ成型済および調味済商品(冷凍弁当等)を展開中
霧島黒豚ブランド価値向上と収益改善	・霧島黒豚リブランド着手、高品位銘柄豚の調査・農場試験を実施中 ・農場斃死率が前期から改善し、収益改善に寄与
加工食品のポートフォリオ健全化と海外再構築	・多様な加熱加工技術を活用し、高付加価値食肉加工品の開発を推進 ・香港および台湾との取引基盤を強化し、アイテム集約と新規開拓により販売増を目指す

セグメントの状況(飼料事業)

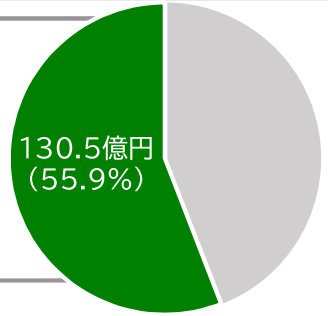
おいしさを、生きるちからに。

概況 :養魚用飼料および畜産用飼料の販売数量増加や原材料価格高騰による価格改定などにより増収。
配合飼料の原材料価格高騰による利益率の悪化等により減益。

飼料事業

売上高　130億53百万円(前年同期比　13.6%増)

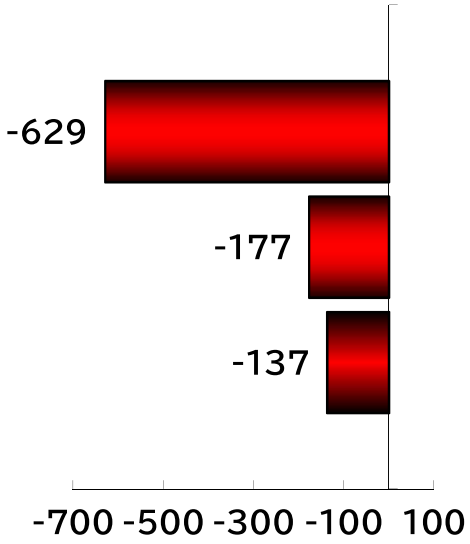
営業利益　1億24百万円(前年同期比　88.4%減)



営業利益の増減要因

営業利益の減少　9億43百万円

(単位:百万円)



養魚用飼料の原材料価格高騰に伴う利益減少

水産物の相場悪化に伴う利益減少

製造費および販管費の増加など

新製品「ぶりカマ先缶詰2種」



セグメント施策の進捗状況(飼料事業)

おいしさを、生きるちからに。

飼料事業

施策	状況
養魚用飼料の国内・海外へ販売拡大	・国内　ブリ(2歳魚)の養殖尾数増加と生餌不足による配合化で販売数量増加 ・海外　養殖尾数減少および魚価低迷による価格競争激化で販売数量減少
生産性向上	・アイテム削減、統合および生産業務の効率化による生産性向上 (エネルギー原単位　前年同期比4.3%改善)
難治性魚病の研究と生産者サポート	・ブリ類のミコバクテリウム症対策実証実験における斃死率の顕著な成果(特許申請) ・養殖魚の細胞内寄生細菌感染症防除方法で特許査定(分割出願中) ・獣医師による難治性魚病の感染拡大防止を目的とした訪問診療を実施

中間連結損益計算書

おいしさを、生きるちからに。

（単位：百万円）

	2026年3月期 第2四半期(中間期)		2027年3月期 第2四半期(中間期)		前年増減	
	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比
売上高	22,369	100.0%	23,357	100.0%	987	
売上原価	19,277	86.2%	21,041	90.1%	1,763	3.9%
販売費及び一般管理費	2,304	10.3%	2,340	10.0%	35	▲0.3%
営業利益	787	3.5%	▲23	▲0.1%	▲811	▲3.6%
受取配当金	71		89		17	
その他	169		113		▲55	
営業外収益合計	241		202		▲38	
支払利息	49		64		15	
その他	9		9		0	
営業外費用合計	59		74		15	
経常利益	969	4.3%	104	0.4%	▲865	▲3.9%
特別利益合計	87		329		241	
特別損失合計	2		1		▲1	
税金等調整前中間純利益	1,055		432		▲622	
法人税等合計	319		113		▲206	
親会社株主に帰属する中間純利益	735	3.3%	319	1.4%	▲416	▲1.9%

通期見通し

（単位：百万円）

	2026年3月期 実績	2027年3月期			
		第2四半期（中間期）実績	前年増減	通期計画	前年増減
売上高	45,586	23,357	987	48,500	2,913
営業利益	1,316	▲23	▲811	1,000	▲316
経常利益	1,673	104	▲865	1,200	▲473
親会社株主に帰属する当期純利益	1,275	319	▲416	1,200	▲75

2027年3月期 通期の見通し

当社グループの当中間連結会計期間の業績は、原材料価格高騰による利益率の悪化等により損益面では減益基調で推移したものの、コスト高の影響は業績予想に織り込み済であり、価格改定等の取り組みも当初計画に沿って進めております。今後も価格改定や収益性重視の製品アイテム集約などにより利益率の改善を見込んでいることから、2026年5月15日に発表した通期の業績予想に修正はありません。今後、経営環境等の変化により業績予想の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

配当の状況

おいしさを、生きるちからに。

	年間配当金					配当金総額（合計）	配当性向（連結）	純資産配当率（連結）
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2026年3月期	—	—	—	43.00	43.00	351	28.0	2.8
2027年3月期	—	—						
2027年3月期（予想）			—	45.00	45.00		30.7	

（注） 直近に公表されている配当予想からの修正はありません。

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。
そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

IRお問い合わせ先　林兼産業株式会社　経営管理本部総務部　TEL 083-266-0210
IRサイト　https://www.hayashikane.co.jp/ir/

「生きる力」を生みだす食糧品メーカーである林兼産業は
食の可能性をひろげる商品を生みだすことで
誰もが幸せに生きられる未来をつくるために活動します。

おいしさを、生きるちからに。

Hayashikane